



明石市立  
文化博物館

# 文化博物館だより 第287号

2009年8月8日

みなさん、こんにちは。『須飼展』関連イベントのJazzLiveが、16日に開催。ご参加下さい！

## ● 須飼秀和ギャラリートーク&サイン会

2日(日)午後2時、ギャラリー島田の島田誠オーナーを聞き手にお迎えして、須飼秀和さんのギャラリートークが始まりました。会場は、大勢のお客様でいっぱいです。

お2人の出会いは、須飼さんが安藤忠雄設計のギャラリーがあると知り、友人を案内したことに始まります。友人と訪れた後、須飼さんは自ら作品を持ち込みます。一目見て、いいと思った島田オーナーは、「うちで個展をしましょう」と提案しますが、話の展開の早さに須飼さんの方が待ってほしいと伝えたとか。知り合いの画家の方から、「ギャラリー島田は信頼のおけるところだから頑張り」と言われ、開催を決めたのだそうです。現在は北野にあります。以前は、神戸の老舗書店の海文堂2階で海文堂ギャラリーとして営業されていたので、ギャラリー島田をご存知の方も多いのではないのでしょうか。

学生時代は、もっぱら抽象画を描いていたという須飼さん。ある時、友人と出かけた町を、純粹に描きたいという気持ちだけで描き始めます。現在に続く画業はそうして始まり、ギャラリー島田での個展以



サイン会の様子。サインも一筆一筆、ていねいに書かれていました

降、新聞や雑誌の掲載が決まって軌道に乗っていきました。連載を続け、次第に描きこみもより細やかなものになっていきます。若い須飼さんが描く、誰もが知っているような、どこか懐かしく感じさせる画風が確立されていきます。

会場を回りながら、作品についての思い出をポツポツと話す須飼さんの言葉がたまると、島田オーナーが話題を向けます。その様子を温かく見守りながら、参加された方はうなづき、時に笑いながら1時間強に及ぶ、ギャラリートークをお楽しみいただきました。

その後、すぐさまサイン会が始まり、会場の外まで行列ができましたが、須飼さんは最後まで丁寧にサインを書いてその後の取材などの対応もされていました。ご本人の誠実な姿勢が、居合わせた方々に充分伝わったのではないのでしょうか。



奥が須飼さん。背中を向けているのが島田オーナー